



# もんじゅを廃炉へ！全国集会

寒風吹きすさぶ

白木海岸で集会―デモ

十二月八日「もんじゅを廃炉へ！全国集会」に参加しました。一九九五年のこの日、福井県の高速増殖炉「もんじゅ」でナトリウム漏洩事故が発生して以来、毎年この集会が開催されています。午前十一時、もんじゅを眼前に臨む寒風吹きすさぶ敦賀市白木海岸には全国各地から約八百名が結集しました。

主催者は、「原子力発電に反対する福井県民会議」事務局長であり、もんじゅをめぐる訴訟で原告団事務局長を務められた小木曾美和子さんが二〇一二年六月二四日に亡くなったこと、小木曾さんへの追悼の意志を確認しつつ、今日の行動を闘いたいと挨拶されました。続いて敦賀平和フォーラム、ストップ・ザ・もんじゅの各団体からの発言がありました。集会に続いて、参加者一同で



12月8日 白木海岸にて (正面にもんじゅ)

「もんじゅの継続反対！」  
「もんじゅを廃炉に追い込むぞ！」  
「核燃料サイクルを中止せよ！」とシュプレヒコールを上げながらもんじゅのゲート前までデモ行進をし、日本原子力研究開発機構

への申し入れ行動を行いました。「もんじゅの試運転再開はあり得ない。もんじゅの廃炉を強く求めます」と題した要請文を読み上げ手渡しました

が、受け取った管理課櫻井氏の返答は「関係部署に回覧する」という何とも意味不明なものでした。午後からは市内のきらめき港館にて「もんじゅ廃炉を求める全国集会」が開催されました。

## ■福井県民会議の水上さんの報告・提言■

―もんじゅ再開の動きと「原子力利用」の「安全確保」項目の追加

水上さんは政府は「革新的エネルギー・環境戦略」の策定段階で、もんじゅの実用化を断念し、放射性廃棄物減量化を目指す研究炉に転換し、研

究終了後に廃炉にすることを示唆していたが、九月十四日に決定した新戦略では、減量化研究は示したものの、「廃炉」などの文言は盛り込まず、高速増殖炉研究の継続についても、あいまいなままになっている。今はもんじゅへの国民の風当たりが強いために、放射性廃棄物の研究炉として存続させておいて、また風当たりが弱くなった頃に運転を再開しようとしているのではないか。放射性廃棄物減量化についてはアメリカやヨーロッパも研究放棄している。

二〇一一年十一月の「事業仕分け」で「もん

じゅ」への多数の厳しい意見が出されたにもかかわらず、二〇一二年十月の文科省交渉で局長が「もんじゅは必要運転再開に向けた動きを進めた」と述べ、大飯原発再稼働の陰に隠れる形で、二〇一三年にも運転を再開しようとする動きがある。

今年一月に、原子力機構の理事長は「事故が起きたら迅速に対応できるようにする」と言ったが、そもそも事故が起きてからでは遅すぎる。六月三十日には原子力基本法が改定され、「原子力利用の「安全確保」は「国民の生命、健康及び財産の

保護、環境の保全並びに我が国の安全保障に資することを目的として行う」という項目が追加された。この項目を削除させる取り組みも必要である、と話されました。

■九州大学副学長の吉岡齊さんから発題■

—今後のエネルギー政策

吉岡さんは政府原発事故調査委員を務められた立場から話されました。特に法律面において、「脱原発基本法」の制定の必要性、また原発関連法をどうするかという課題があると言われていました。そこへのプロセス

については、それぞれ意見の違いがあるが、「脱原発」ということにおいて我々は一つにならないればならない、それは決して難しいことではないと述べられました。

■原子力資料情報室の伴英幸さんから発題■

—隠されてきた活断層

伴さんは、経産省は「活断層の上には建てない」と言っていたが、「大丈夫ならいい」と変節している。3・11地震の揺れは数分間続いたのに対し、「もんじゅ」の耐震想定は数十秒ではない。作ってみたもの

トラブル続きでほとんど動かすことのできないまま、ただ老朽化しているもんじゅはこのまま廃炉にするしかない。老朽化したもんじゅを、動かすという組織自体が老朽化している、と話されました。

もんじゅがムリ・ムダ・危険でしかないことを、改めて認識させられる報告でした。

■青森県保険医協会理事・核燃料サイクル阻止一万人訴訟原告団の佐原若子さんの報告■  
―再処理工場の現状

佐原さんは、もんじゅ

を抱える福井県敦賀市と

再処理工場を抱える青森

県六ヶ所村は、兄弟のよ

うに共通した被害を被っ

ている。原子力安全委員

会の有識者の一人が、

「福井県民はB級国民だ」

と言った。では、青森県

民は電気を使わないのに

核のゴミを進んでほしが

る「C級国民」なのか？

道路・箱物建設・教育

事業・観光施設などの交

付金による懐柔政治は一

方で第一次産業の不安、

風評被害、地域社会の崩

壊や感情のもつれなどを

もたらした。青森県民は、

原子力村・国に「C級国民

」にさせられたのだ。六ヶ所村の再処理工場

は大変危険な状況にある。

再処理をやめてこれ以上

ブルトニウムを作らない

こと、それ以外に解決策

はない、と話されました。

また故・熊谷あさ子さ

ん、そして長女小笠原厚

子さんに引きつがれてい

る大間原発を止める取り

組みを紹介され、市民・

労働者・農民・漁民すべ

ての力を集め怒りの声を

届けようと呼びかけられ

ました。

衆議院選挙を目前に控

えたこの日の集会では、

一人でも多くの脱原発議

員を送り出す取り組みを

ということが呼びかけら

れました。果たして結果

は……。

周知の通り自民党・原

発推進政権に逆戻りとい

うとんでもない事態です。

しかし我々は決してあ

きらめません。むしろ多

くの市民が原発問題に無

関心できてしまった時間

の長さ、懐柔政治の陰湿

さ、「安全キャンペーン」

の巧妙さなど原発問題の

根の深さを改めて目の当

たりにするにつけ、ます

ます奮起させられます。

より一層声を大にして、

「脱原発」を訴え行動し

ましょう！  
(ケアセンター H)